



2015年度 関西独自消費材の放射能検査結果

■ 関西独自材の放射能測定結果

生産者	対象消費材	産地	検査日	検査機関	Cs134	Cs137	セシウム合計
宮崎きのこ園	えのき茸	長野県	9月9日	生活クラブ	ND	ND	ND/7.7
八ヶ岳会	りんご(つがる)	長野県	9月16日	生活クラブ	ND	ND	ND/8.5
八ヶ岳会	巨峰	長野県	9月16日	生活クラブ	ND	ND	ND/7.3
竜王町稲作経営者研究会	竜おうみ米	滋賀県	9月30日	ちくりん舎	ND	ND	ND/1.0

【検査結果の見方】 単位：Bq/kg 「検出値/検出下限値」で示します

半減期の長いセシウムに絞って検査をしています。セシウム134、セシウム137の合計値で「検出限界値」を記載します。

検出値欄のNDは、検出限界値未満での不検出を表します。

※13年4月から生活クラブ飯能DC検査室に導入した5号機はセシウム137とセシウム134の合計値で算出することにより感度を高めています。そのため、連合会の検査ではそれぞれの数値は表示されません。

10月は836検体の放射能検査を実施しました。

9月5回～10月3回（9/28～10/25）の放射能検査は飯能DCと戸田DC、放射能汚染食品測定室（測定室）及び外部機関で計836検体の消費材検査を実施しました。検査の詳細情報は生活クラブ連合会のホームページの放射能検査結果Web検索をご参照ください。 <http://www2.seikatsuclub.coop/housha/>

836検体中、809検体（96.8%）は放射性セシウム不検出でした。検出はいずれも関西では取扱いのないもので、生椎茸4産地、菌床生椎茸、レンコン2産地、舞茸2産地、岩手一の関米、黒磯米、さつまいも、の12品目・27検体で、自主基準値を超えた消費材はありませんでした。

単位：Bq/kg

生活クラブの自主基準値		検出下限 目標 <small>供給直前検査対象 品を除く</small>
食品区分	基準値	
飲料水※	10	1
牛乳(原乳)・乳製品①※		
乳幼児食品		
米		
鶏卵・鶏肉・豚肉・牛肉	20	2.5
乳製品②※・青果物・魚介類・加工食品	50	7
きのこ類	100	10

国の基準値	
食品区分	基準値
飲料水	10
牛乳	50
乳幼児食品	50
一般食品	100

※飲料水には、ミネラルウォーターや緑茶以外にウーロン茶

紅茶、山草茶、麦茶、抹茶も含まれます。

※乳製品①は、生活クラブの牛乳を原料とする乳製品

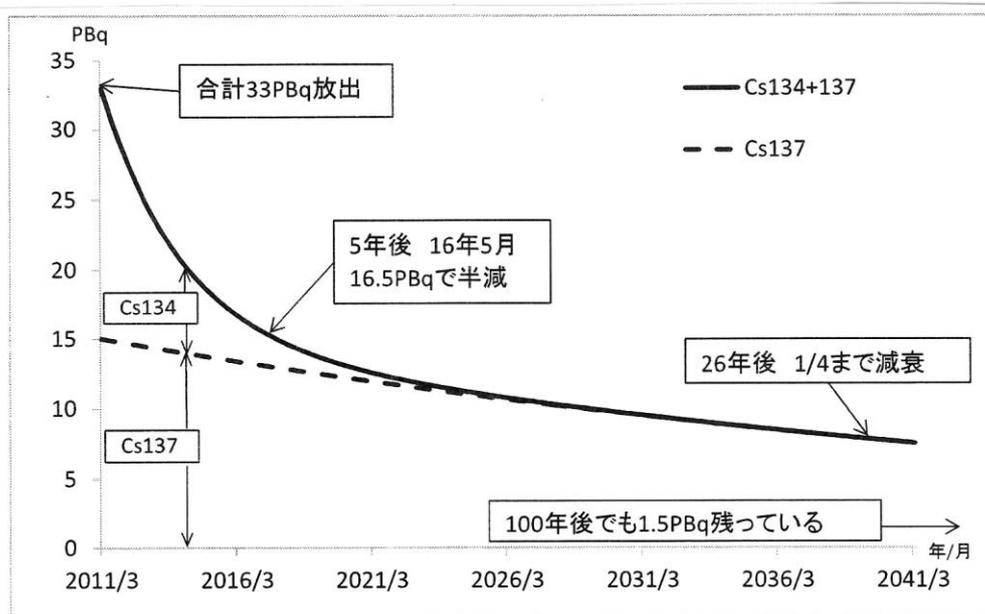
乳製品②は、他の牛乳を原料とする乳製品

福島第一原発事故で放出された放射性セシウムはもうすぐ半減します

2011年3月の東日本大震災による福島第一原発事故で、セシウム(以下Cs) 134とCs137は同量注1放出されました。事故から4年半が経ちました。Cs134の半減期は2.06年、Cs137は30.1年です。Cs134は半減期が2回過ぎてさらに半年で、今は約1/5になっています。Cs137は10%ほど減りました。合計して放出量の約55%まで減っています。

下のグラフでは実線がCs134とCs137の合計を表していて、点線がCs137の量です。間がCs134の量です。Cs134は10年経てば、ほとんどなくなります。一方Cs137はゆっくりとしか減衰しません。合計は5年で半減しますが、1/4になるのは26年かかるわけです。100年後でもCs137は元の量の10%、1.5PBq残ります。長期にわたる検査が必要です。

注1：事故当時の原子力保安院の報告書によると、Cs134は18PBq、Cs137は15PBqでした。これを踏まえて、計算すると16年5月に半減となります。尚、1PBq (ペタベクレル) は1000兆Bq=10の15乗Bqです。



だから、これからも放射能検査を続ける必要があります。



ハカセくん